

かまいいし

令和4年3月15日
釜石市教育委員会

釜石市鈴子町15-2
TEL 22-8832
FAX 22-3633

令和4年度 教育行政方針演述

令和4年度 教育行政方針演述

令和4年3月釜石市議会定例会において、高橋 勝教育長が「教育方針演述」を述べました。その中から主な項目をご紹介します。

令和4年度は、「強く生き抜く力の育成～魅力ある学校づくりを通して～」を学校教育の目標に掲げ取り組んでまいります。

各学校が、児童生徒にとって

魅力ある学校づくりに取り組む中で、子どもたちが学校に通うこと樂しいと感じ、仲間と切磋琢磨しながら、充実した学校生活を過ごせるようにしてまいります。そして、子どもたち一人ひとりに、自分の未来を切り拓く力、将来、社会の一員として社会の未来を創る力を育ててまいります。

(1) 「いのちの教育」の推進

「いのちの大切さ」を学校教育の根幹とし、全ての教育活動を通して、なによりも自他の命を大切にする子どもたちを育みます。

(2) 確かな学力の育成

子どもたちに、「知識・技能」を習得させ定着させるとともに、

「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育みます。そのために、より一層「わかる授業」を目指した授業改善に取り組みます。

「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育みます。そのために、より一層「わかる授業」を目指した授業改善に取り組みます。

(3) 豊かな心の育成

子どもたちに、学校教育を通して、「思いやりの心」「感謝の心」「奉仕の心」「互いの良さや違いを認め合う心」を育てます。そのため、道徳教育やキャリア教育、読書活動の推進、体験活動の充実を図ります。

(4) 健やかな体の育成

学校体育の充実を図りながら、運動への興味・関心を高めます。当市では、歯の健康の課題や、肥満傾向の子どもの割合が高いなどの課題があることから、健康教育の充実に努めます。

(5) 学校と地域との連携の推進

学校と地域がより一層協力する仕組みとして、コミュニケーション・スクールを令和4年度から導入します。

(6) ICT教育の推進
1人1台配備したタブレット端末を子どもたちの学びに効果的に活用します。ICT支援員を配置し、ICT教育を支援します。

(7) 生徒指導の充実

不登校・いじめへの対応など、教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、学校や家庭を支援してまいります。

(8) 特別支援教育の充実

特別支援学級や通級指導教室（ことばの教室等）の設置、特別支援教育に関わる教育相談や教育支援会議を通じ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細やかな支援・指導を行います。

(9) 郷土理解と郷土への誇りと愛着を育む活動の推進

小中学校に引き続き、特別支援教育支援員を配置し、特別支援教育の充実を図ります。

(10) 幼児教育の充実

学校と地域の歴史や文化、産業などを学び、体験させながら、郷土への理解と郷土への誇りと愛着を育みます。

特に、鉄づくり体験については、令和4年度から、市内全ての中学校1年生に体験させます。

は、令和4年度から、市内全ての中学校1年生に体験させます。

(11) 教育環境の充実

子どもたちが安全で安心な学校生活を送ることができるよう学校施設の維持・管理に努めます。学校トイレの洋式化については、予算を勘案しながら、計画的に進めます。

(12) 教育環境の充実

少子化に伴う、今後の学校の適正規模・適正配置の検討につきましては、「釜石市学校規模適正化検討委員会」を設置し、検討を行っているところです。今後、検討委員会の協議を踏まえ、教育委員会としての考え方を示してまいります。

なお、「教育行政方針演述」の全文につきましては、ホームページに掲載しております。

全文につきましては、ホームページに掲載しております。

かまいじコミュニティ。 スクールの推進

「学校」と「地域」が ともに元気に！ その2

これまでも、学校では地域の力を借りしながら様々な教育活動を行つてまいりました。しかし、現在、子ども達を取り巻く環境や、学校が抱える課題が複雑化かつ多様化してきています。そこで教育改革、地方創生からの観点からも、これまで以上に、学校と地域の連携・協働が重要なになつてきます。そのような社会総がかりの教育によつて、子どもや学校の抱える課題の解決や、釜石の未来を担う子ども達の豊かな成長を支える仕組みが「コミュニティ・スクール」です。

次に、コミュニティ・スクール導入校が目指す「地域とともににある学校の姿」とはどのようなものなのでしょう。3つ紹介します。

コミュニケーション・スクール導入校では、地域の様々な方々で構成される「学校運営協議会」において、

学校運営に対し様々なご意見をいたたくことになります。また、子ども達がどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのかという目標・ビジョンを共有するため「熟議(熟慮と議論)」を重ねることで、子ども達に関わるより多くの方のご意見を取り上げることが可能となります。次にあげるのは、熟議のテーマ例です。

かまいし絆会議は、平成29年度から始まり、今年度で5年目となりました。釜石市内の小中学生が、地域や学校のためにできることを、仲間と共に考え、実践を積み重ねてきました。

世界中からの復興支援への感謝、家族や自分を支えてくれる人の感謝、未来への決意などの思いを込め、合唱曲やモザイク壁画、PRビデオ作成を行つてきました。

**新メンバーによる
かまいし紺会議開催！**



市長への報告の様子



意見を共有する様子

今後、各校の計画案を交流し、釜石を盛り上げるような活動を考えていくことになります。

また、2月の大館市の中学生との交流、かまいし未来づくりプロジェクトの方々との交流を通して、さらにリーダーが高い意識で、活動を推進していくってくれることと思います。

このかまいし絆会議が、みんなの思いをのせ、さらに大きく成長していくほしいと思います。

教育広報かまいし第66号では、令和4年度から市内全ての小学校において、コミュニケーション・スクール（学校運営協議会制度）を導入することについて説明しました。今号でも引き続き、コミュニケーション・スクールを導入して、どのような学校や子どもの姿を目指すのかに

【自指す学校の姿②】

学習内容を組織的・計画的に地域とつなぐ教育課程をともに練り上げます。また、評価・改善を通して、子どもにとって本当に必要な力を育んでいきます。

各学校の基本方針や目指す子どもの姿について保護者や地域で共有し、強く生き抜く力を育むために未来志向で話し合います。

- ・【熟議のテーマ例】
子ども達がどう育つて欲しいか。
- ・地域の力をどう子ども達の教育に生かすか。
- ・学校と地域が一緒にできる防災の取組みとは。
- ・郷土学習で何を子ども達に伝えるのか、など。

指し、清掃活動やあいさつ運動などの地域活動にも力を入れてきました。そんな釜石市内の児童・生徒の主体的な活動が評価され、『はばたき賞』をいただいたことは、とても喜ばしいことであり、児童生徒の自信にもつながるものであります。これからも、こどもたちの主体的な活動が地域を盛り上げ、釜石がさらに魅力的な町に発展していければと思います。

今後、各校の計画案を交流し、
釜石を盛り上げるような活動を考え
てみたいと思います。

ことをねらい、会議を行いました。コロナ禍でも、工夫しながら地域活動を行つたり、メッセージ発信をしたりなど、地域のために活動できたことが、成果としてあげられました。

学校給食センター事業 令和3年度献立募集 入賞作品決定

小学校の部

【最優秀賞】

『おかげにもなる

さばかんみそ汁』

令和3年度献立募集の入賞作品が決定しました。

この事業は、メニューをお家の方や友達と考え、料理を作ることを通して、自然や食べ物への関心を育み、生涯にわたつて自らの健康管理ができる児童・生徒を育てることを目的としています。

今年度も昨年度同様、「ぼくの・わたくしのおすすめ汁物」として料理を汁物に限定して募集を行いました。

小学校48作品、中学校33作品の応募がありました。具沢山なもの、かみかみ食材を使つたもの、減塩を意識したものなどアイデアに満ちた作品が集まりました。

その中から、厳選なる審査を行い、入賞作品が決定しました。

今年度も残念ながら新型コロナウィルスの流行のため、表彰式は開催できませんでしたが、賞状と記念品を各学校で授与していただきました。

入賞者は次の通りです。
※氏名等の公表について了承を得た
方のみ掲載しております。

【優秀賞】

釜石中学校2年
田村 優空さん



中学校の部

【優秀賞】

釜石小学校6年
成田 こはねさん



『釜石市学校規模適正化検討委員会が 開催されました』

開催されました

学校規模適正化検討委員会は、学校関係者、保護者、学識経験者等の委員で構成され、市内小中学校の適正規模や適正配置を検討するため設置されています。これまで、「当市の学校、児童生徒の現状と今後の推移」、「子どもたちにどのような力が必要か、備えたい資質・能力は何か」、「小規模校のメリット・デメリット」について議論を重ねてまいりました。

【第4回検討委員会】

令和3年11月26日（金）に、「学校の役割」を議題として開催されました。

【第5回検討委員会】

令和4年2月15日（火）に、「学活動」及び「学校と地域との関わり」を議題として開催されました。

【第6回検討委員会】

令和4年3月15日（火）に、「部活動」については、事務局より、生徒数の減少により、大会では合同チームでの参加となる場合があること、小規模校では種目が限られること、学校によっては廃部を行っている等の説明がありました。委員からは、部活動の意義・目的についての質問や合同部活動などの工夫ができるのではないかとの意見がありました。

なぐコミュニティ形成、交流の場所になつております、地域においても大切な役割を担つていることも再確認されました。また、地域が一体となつて子どもたちを育て、地域と共に学ぶ環境としての学校の役割にも着目することが大事との意見がありました。

学校規模適正化検討委員会は、学

子どもたちに目を向けた「学校の役割」としては、基礎学力・知識や学ぶ姿勢を身につけ、学ぶ楽しさや向上心を育み、集団生活・行動を学び実践しながら、コミュニケーション能力を培う大切な場であること。自らを「大切な存在」として認識する自己肯定感を育み、将来において参画する社会生活の中で幸せになる力、多様な変化に対応する力、問題の解決方法を考える力を身に付ける場所となる等の意見が挙げられました。

地域や社会といった目線から見た「学校の役割」としては、安全安心な地域や防災の拠点、地域と人をつなぐ広い中学校や高等学校からは、学区が広くても地域との連携を図ることは可能であるとの意見がありました。

「学校と地域との関わり」では、実践例の紹介や、コミュニティ・スクールの導入を踏まえ、学校と地域の一層の連携が求められること、学区が広くても地域との連携を図ることは可能であるとの意見がありました。